

科 目 名
建築計画Ⅳ Architectural Planning Ⅳ

2 年 後期 2 単位 選択

横 堀 肇

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(1), 1-(2), 2-(2), 2-(3), 2-(5), 3-(3), 4
建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準 1 の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
C	—	建築総合コース	選択	22.5時間
	C 1	建築計画コース	必修	
	—	建築構造コース	選択	

【概 要】

現在、建築の種別は多岐にわたり、それが複合化される傾向にある。これまでの種別ごとの形態も変化して来ている。しかしながら、一見、大きく変化したように見える計画・設計手法も、見かけでの特殊化、専門化、複雑化の背景には、これまでと変わらない原理・原則が存在する。これは特に人間の行動や自然、社会との係わり合いにおいて連ねられる原理である。建築計画Ⅳでは、表面的には特に変貌が激しい種別として「事務所」「学校」を取り上げて、その歴史の変遷と最新の傾向を学ぶ。

【到達度目標】

- (1) 事務所建築を理解する。
- (2) 歴史の変遷を知る。
- (3) 絶対高さ撤廃を理解する。
- (4) 容積規制を理解する。
- (5) インテリジェントビルを理解する
- (6) 明治の学制を理解する
- (7) 戦後の制度を理解する
- (8) オープンスクールの意義を理解する

【授業計画】

テーマ	内 容
① 事務所Ⅰ	採光の中庭、絶対高さ制限を学ぶ。
② 事務所Ⅱ	コア、レントブル比、西新宿超高層事務所事例 1 を学ぶ。(ビデオ)
③ 事務所Ⅲ	容積制度の導入、西新宿超高層事務所事例 2 を学ぶ。(ビデオ)
④ 事務所Ⅳ	オフィスレイアウト、オフィスランドスケープ、インテリジェントビルを学ぶ。
⑤ 事務所Ⅴ	事務所の歴史、公開空地、アトリウムを学ぶ。
⑥ 事務所Ⅵ	建替え、容積ボーナス、区分所有ビルを学ぶ。
⑦ ①～⑥の総括と中間テスト	①～⑥のまとめと中間テスト
⑧ 学校Ⅰ	義務教育と明治の学制を学ぶ。
⑨ 学校Ⅱ	戦後の民主化と学校建築を学ぶ。
⑩ 学校Ⅲ	学級の発生と教室を学ぶ。
⑪ 学校Ⅳ	履き替えを学ぶ。
⑫ 学校Ⅴ	校舎と運動場を学ぶ。
⑬ 学校Ⅵ	教育環境の変化と計画を学ぶ。
⑭ 学校Ⅶ	学校の種類と制度を学ぶ。
⑮ ⑧～⑮の総括	⑧～⑮までのまとめと学生自身による自己評価を行う。

【授業方法】

教科書に準じて解説し、必要に応じてビデオで、事業の実施事例を紹介する。

【学習到達度の評価】

- 1) テキストの各章ごとに講義の最後に、理解度を確認する。
- 2) 定期試験により採点・評価をおこなう。
- 3) 授業中にも適宜質問をして、学生の理解度を確認する。
- 4) 定期試験後に講評を行う。

【評価方法】

- 1) 中間テスト(40点)および定期試験(60点)により評価とする。全体の正解率が6割に満たない場合は、再試験を実施する。また、定期試験時には学生自身による自己評価を行う。講義中、随時質疑を行い、理解度を確認する。
- 2) 全授業終了後に学生自身による自己評価を行う。

【関連科目】

1 年：建築計画Ⅰ、建築計画Ⅱ
3 年：建築設計Ⅱ

【教科書・教材】

建築計画Ⅱ 鹿島出版会
コンパクト設計資料集成 丸善株式会社 日本建築学会 編

【履修上の注意】

常日頃、街に出て建物に入ったとき、人の動きに注意を払うように心がける、建物内における、人の動き(動線)も観察は建築計画の基本である。

【オフィスアワー】

適宜、昼休み(12:00～1:00)に研究室にて講義内容に関する質問を受付ける。